

えりもしゃくなげ



教育委員会だより 発行者 教育長 川上松美

「チームえりも」本年度のキーワード 「凡事徹底」

～「凡事徹底」のわけ～

- 平成25年度から進めている「チームえりも」の取組は、当町の教職員の真摯で熱心な姿勢の中で多くのなすべき指導が行われてきています。
- ・そこで、28年度は、これまで取り組んできた内容について、例えば、立腰（手は膝の上、背筋は伸ばす、背もたれに触れない）など、「凡事徹底」を図り、小・中・高が一丸となって推進する節目の年と位置付けました。

～松下幸之助氏の言葉から～

- 「凡事徹底をはかる」
- ・松下電器の創業者である松下幸之助氏が取引先の企業を訪問された際、「その企業の経営がうまくいっているのかどうかを瞬時に見抜かれた」というエピソードがあります。それは一つに従業員の挨拶、二つに整理整頓、三つはトイレの掃除、だったそうです。この三つを見れば大体その会社の様子が判ると言われたということです。

- ・このことは、学校や家庭においても同じように当てはまるのではないかと思います。
- 学力を「学ぼうとする力（意欲）、学ぶ力（学び方）、学んだ力（知識・技能・表現力・判断力等）」と考えるとき、この三つの力を育むための基盤（土台）の姿の一つに「立腰」が上げられます。
- 年度当初、「こうすべきことが望ましい」と考えた具体的な内容について、『凡事徹底の風土』を創ることを学校と家庭が連携し粘り強く推進していくことが大切です。

立腰を徹底しています



【立腰が身に付いてきた庶野小1年生】

- 6月、すべての学校を訪問しましたが、「立腰」NO1と称賛できる児童生徒が多くなってきたことを感じました。先生方の指導で学級全体の「学びの環境」が作り出されてきていることが伝わってきました。

中央の写真は、庶野小学校1年生の午後からの算数の授業風景です。入学して3か月が過ぎた児童ですが、そこには、「立腰」が身に付いてきていることをうかがい知ることができました。

学校では、立派な立腰の姿を誉めたり、また気付かせたりする意図的な指導、また家庭では、食事などの姿勢を誉めるなど、学校と家庭が意識をもって凡事徹底を図るようお願いします。

整理整頓を徹底しています



【整理整頓されたえりも中学校の靴箱】

- 6月20日（月）に学校訪問をした際、ふと生徒玄関の靴箱に目がいききました。凡事徹底の一つです。家庭でも、玄関の靴の整頓など、連携を図る取組が大切です。

学びの広場



単元を貫く言語活動で作った作品を展示。
平行読書で読んだ本も並べています。

○国語では、今日、求められている表現力の育成を図るため、単に教科書で学ばせるだけでなく、「単元を貫く言語活動」の指導を通して、児童が伝えたい話をまとめて作品を作るなど、大きな成果を上げています。写真は、廊下に「学びの広場」を設けて、その成果を紹介しています。

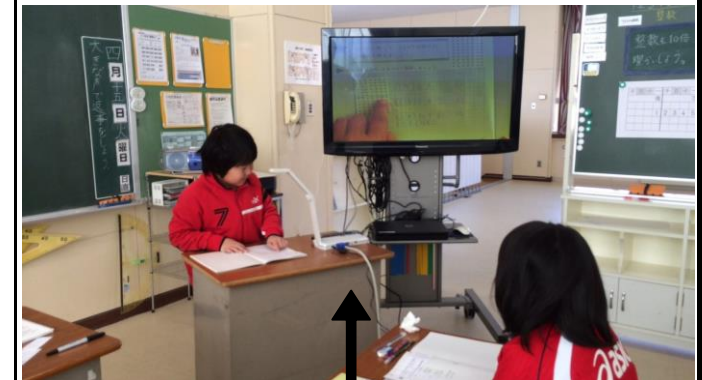
東洋ふるさと学習

○「東洋ふるさと学習」の一環として5月17日（火）に東洋老人クラブの根井さんと友田さんに畑の先生になっていただき、全校児童10名でジャガイモを植えました。秋の収穫が楽しみです。まさに、地域の学校支援です。



○子供たちにとっては、ゲストティーチャーとの触れ合いや植物の栽培を通して、生命を大切にする心や自然の恵みに感謝する心を育てる機会となっています。

実物投影機を生かした児童の発表



児童がノートに書き込んだ自分の考えを、そのままの形で友達に紹介することができ、自分の考えを広め、深めることができる場となっています。

○東洋小学校では、国語や算数の時間など、授業で児童一人一人が考えたことをノートに書き、その内容を実物で投影できる実物投影機を使って伝えるなど、児童がより学習に意欲的に取り組む授業の工夫改善に努めています。

実物投影機は、使うこと自体が目的ではなく、授業改善のための手段として先生が活用しています。